

窒素量の見直しと 初期生育確保の重要性について

JA佐渡 営農振興課
佐藤 大介

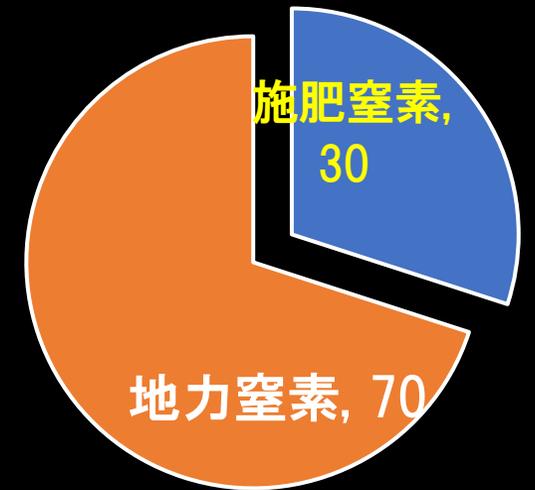
本日のお話し

- ① 稲は1作でどれだけ窒素を吸収するか知っていますか？
- ② 隣県でコシヒカリへの窒素施用量が一番少ない県は？
- ③ 新潟県特裁米地域慣行基準化学窒素成分量の変更及び佐渡地域での窒素施用量の実態について
- ④ 出穂3日前追肥は倒伏に影響しない事を知っていますか？
- ⑤ 施肥したい窒素量を出す計算式は知っていますか？
- ⑥ 佐渡は本土より初期生育確保が難しいってホント？

① 稲は1作でどれだけ窒素を吸収するか

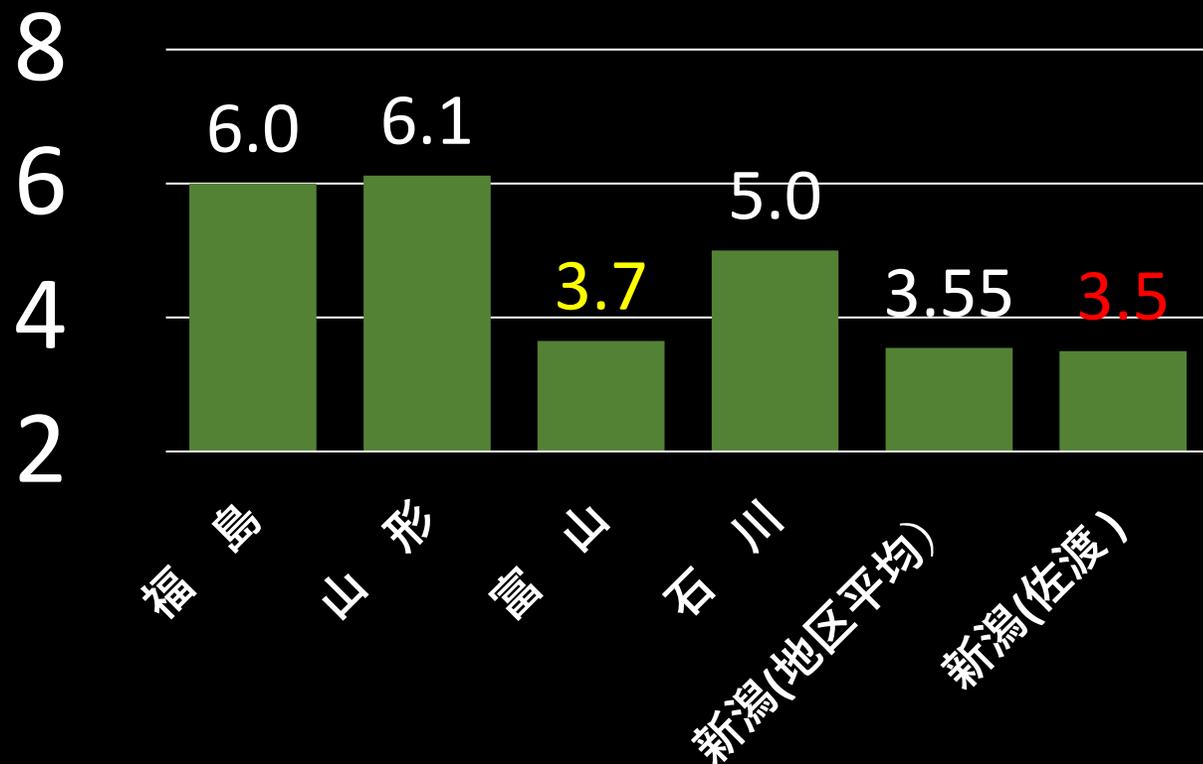
- ・ 毎年一反歩に施肥する窒素量は基肥で4kg、穂肥で3kg併せて7kg程度撒いている。
- ・ 「可給態窒素」といって田んぼの土からの窒素供給割合は施肥の1.5～2倍位、一反歩7kg窒素施肥している場合は地力からは10～14kg/10a位補完してもらっている。←だから「**土づくりは重要!**」
- ・ 新潟県の地力目安は「中粗粒質低地土（佐渡）」でNH₄風乾生成量15kg/10a

水稻が1作年で吸収する窒素割合(%)



②隣県でコシヒカリへの窒素施用量が 一番少ない県は？

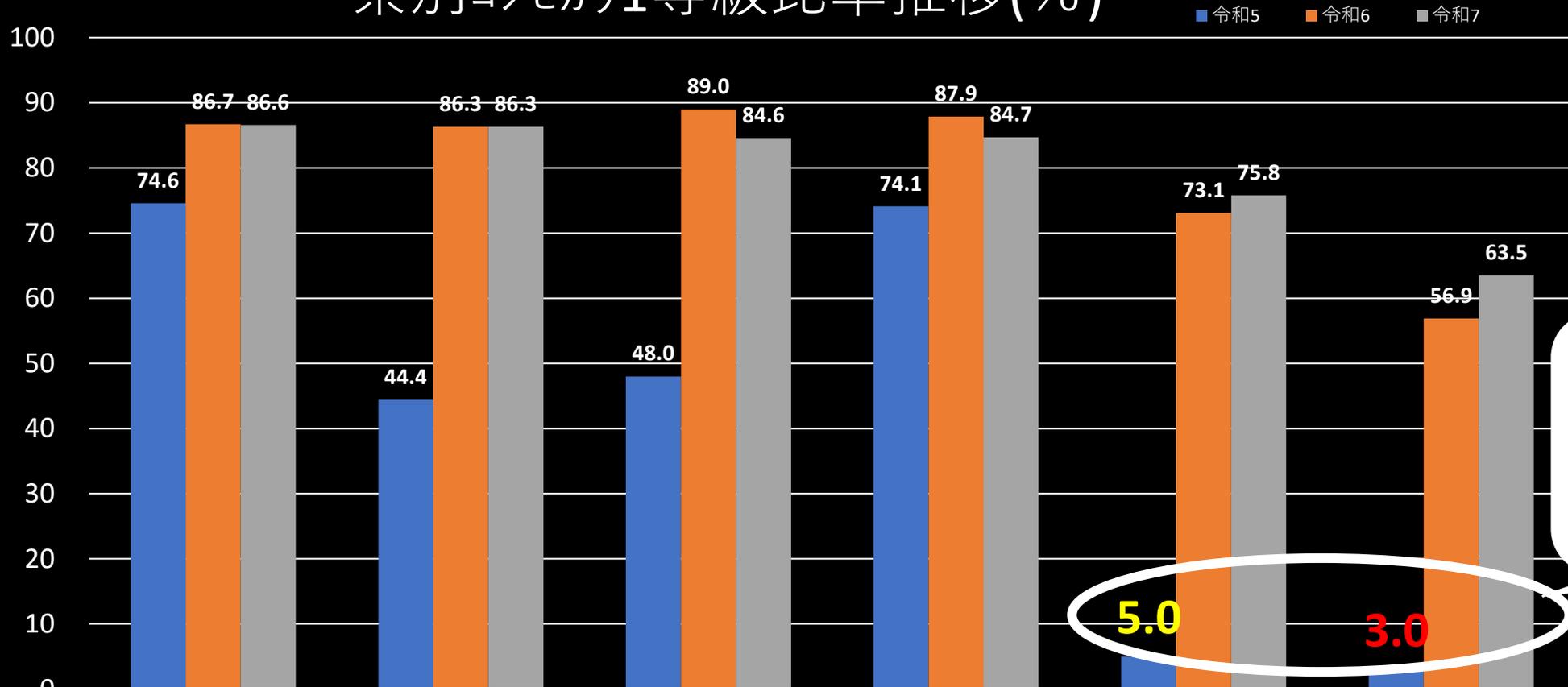
5割減化学由来窒素量(kg/10a)



新潟県では猛暑の対策として新潟県特栽米地域慣行基準化学窒素成分量が3.0kg/10aから3.5kg/10aに見直しがされた。

しかし、隣県のコシヒカリへの窒素施用量と比較すると、新潟県は最も低い値となっている・・・

県別コシカ1等級比率推移(%)



直近3年の品質では隣県の中で最も品質が低い結果に・・・

	福島	山形	富山	石川	新潟	新潟(佐渡)
■ 令和5	74.6	44.4	48.0	74.1	5.0	3.0
■ 令和6	86.7	86.3	89.0	87.9	73.1	56.9
■ 令和7	86.6	86.3	84.6	84.7	75.8	63.5

③新潟県特裁米地域慣行基準化学窒素分量が変更 及び佐渡地域での窒素施用量の実態について

○新潟県特裁米地域慣行基準化学窒素分量が3.5kg/10aへ
見直しがされたが、佐渡地域では3.0kg/10a以下の方が多くの
割合を占めています。

なぜ・・・



・倒伏がこわい...

・肥料をまきたい
けど労力がない...

・コストがかか
ってしまう...

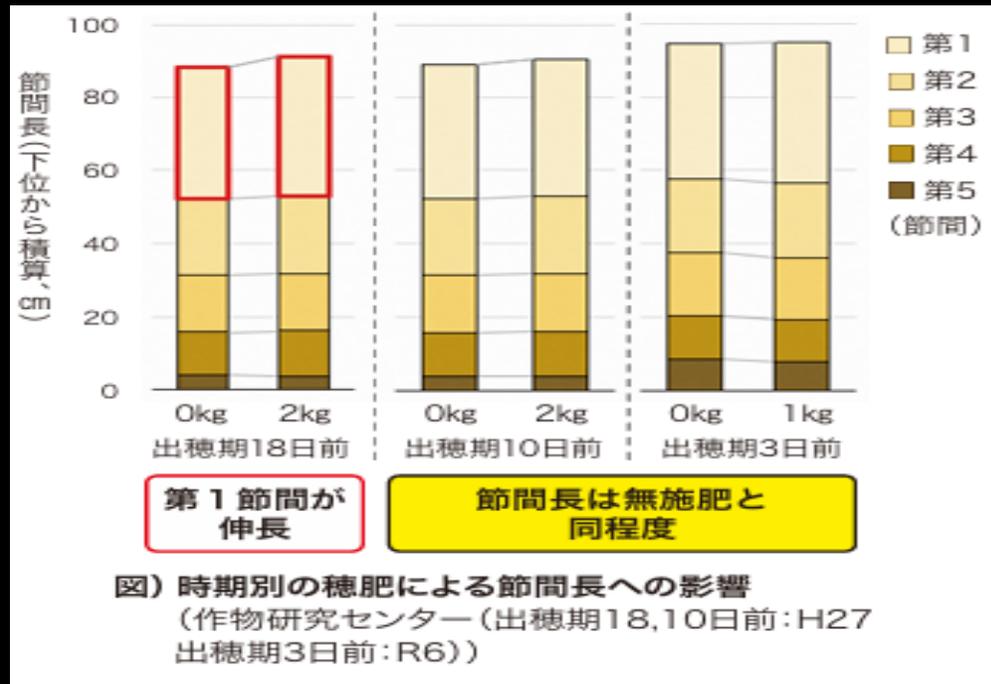
④出穂3日前追肥は倒伏に影響しない

近年は異常高温が常態化しています。

そこでJA佐渡では暑さを耐えるための「耐暑肥」を推奨しています。

しかし、農家の方のイメージではどうしても「追肥（穂肥）を多く施用する＝倒伏を助長する」につながってしまい、施用に踏み切れないとの声が聞かれます。

しかし、この様な試験結果があります！



出穂の10日前からの追肥は下位節間に影響していない！
ということは...
出穂の10日前から追肥しても倒伏はこわくないんだ！！！！

⑤施肥したい窒素量を出す計算式について

- 施肥したい窒素量を計算するには

「入りたい窒素の量」 ÷ 「肥料の窒素%」 で計算します。

但し・・・

この計算では化学窒素と有機由来窒素の合わせた全窒素量になるため、化学窒素を計算するためには以下の式で計算し、化学窒素が3.5kg/10aを越えないようにしましょう。

「肥料の重さ (kg)」 × 「化学由来窒素成分 (%)」 = 化学窒素量 (kg)

※化学由来窒素成分割合は肥料袋またはチラシに記載されています。



⑥佐渡は本土より初期生育確保が難しい

佐渡地域が初期生育確保が難しい理由

- ①風が強いため老化苗や軟弱徒長苗を植えると植え傷む
- ②地温が低く発根が遅れている
(地温が16°C以下は根の生育が止まる)
- ③鉄が不足している地域が多くワキにより根が傷む
- ④田んぼによっては硫黄欠乏になっている



課題がたくさん…
どうしたらこの課題を解決できるだろう？

課題を改善するための提案

- ①計画的な育苗計画で健苗育成をし、良質苗で田植え後の風や低温に負けない苗づくりの徹底
- ②土づくり資材の活用
特に「鉄」、「ケイ酸」、「イオウ」がこれから品質を高める鍵に！
- ③田植え後の水管理の徹底
田植え後10日は5cm以上、それ以降は3cm程度の浅水にし、地温高めましょう！
※田面が露出しないよう注意しましょう！

ご清聴ありがとうございました